

4 年度 事務事業評価シート

事務事業名	防疫等対策事業		会計名称	一般会計		担当課	環境政策課	
			予算科目	4 款 1 項 5 目	事業番号	2160	所属長名	久保貴比古
事業評価の有無	☒ 評価対象事業 ☐ 評価対象外事業（事業の概要・結果のみ）					担当責任者名	上岡悟史	
法令根拠等	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律					実施期間	【開始】	令和／平成 18 年度
総合計画での位置付け	快適空間都市の創造						【終了】	令和 年度(予定) ■ 設定なし
	循環型社会構築に向けた環境づくり							
総合計画における本事業の役割	日常生活における不安要因を極力少なくすることによって、住民が快適に暮らせる環境づくりに寄与する。							
事業の対象	ねずみ・有害昆虫及び被災家屋			事業の目的		感染症に規定する一類・二類・三類感染症又は四類感染症の発生予防とそのまん延の防止、良好な生活環境の中で市民生活が営まれ、市民一人ひとりが住みよいと感じることのできる環境の維持を図る。		
事業の内容 (整備内容)	ねずみ・ハエ・蚊等害虫発生時に苦情対応及び駆除、水路等衛生管理のための消毒液配布、災害時における被災家屋等の消毒、感染症の病原体に汚染され又は汚染された疑いのある飲食物・衣類・寝具・その他物件の消毒。			昨年度の課題に対する具体的な改善策				

事業費及び財源内訳(千円)							事業活動の実績(活動指標)							
項目		前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目		単位	前年度実績	4年度予定	9月末の実績	4年度実績
財源内訳	直接事業費	49	115	0	0	0	33	被災家屋等の消毒件数	件	0	1	0	0	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0							
	県支出金	0	0	0	0	0	0	病虫害駆除用資材の交付	件	0	5	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	0							
	その他	0	0	0	0	0	0							
	一般財源	49	115	0	0	0	33	病害虫に関する苦情件数	件	1	5	0	0	
職員の人工(にんく)数	0.05	0.05				0.05								
1人当たりの人件費単価	7,841	7,794				7,794								
※ 直接事業費十人件費		441	505				423							
主な実施主体		直接実施		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)										
向こう5年間の直接事業費の推移(千円)						5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	5年間の合計			
						92	92	92	92	92	460			
成果指標	指標	感染症発生件数	単位	⇒	区分年度	前年度	4年度	5年度	目標	毎年度				
			件		目標	0	0	0	0					
	指標設定の考え方	根拠法令が感染症の発生を予防し、感染症のまん延防止を図り、公衆衛生の向上及び増進を図る目的であることから設定する。	実績		0	0								
			指標で表せない効果											

事務事業評価（CHECK）

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)			突発的な災害発生に対応するため防疫に備える必要がある。									
事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。	4	合計点が		A	事業成果・工夫した点 事業の苦労した点・課題	防衛資材として備蓄している薬剤の使用期限・数量の在庫管理を行い、突発的な災害に係る防疫に備えることができた。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。		14～15：S 10～13：A 8～9：B 5～7：C 3～4：D						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	4							
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。	4	合計点が		A				
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	3	14～15：S 10～13：A 8～9：B 5～7：C 3～4：D						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。	3							
		効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 施策推進に向け、効果を認めることができる。 施策推進につながっていない。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	3	合計点が		A				
			コスト効率	5 4 3 2 1 最適手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	3	14～15：S 10～13：A 8～9：B 5～7：C 3～4：D						
			市民（受益者）負担の適正	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	4							
		一次判定 (所属長)	妥当性	社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	4	合計点が				A	事業の方向性 所属長の課題認識
	市の関与の妥当性			5 4 3 2 1 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。	4	14～15：S 10～13：A 8～9：B 5～7：C 3～4：D						
	事業の効果			5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。	4							
	有効性		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。	4	合計点が		A				
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4	14～15：S 10～13：A 8～9：B 5～7：C 3～4：D						
			手段の最適性	5 4 3 2 1 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	4							
	効率性		コスト効率	5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。	4	合計点が		A				
			市民（受益者）負担の適正	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4	14～15：S 10～13：A 8～9：B 5～7：C 3～4：D						

施策を踏まえた判断	二次判定	☐	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒	指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		☒	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。		
		☐	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。		
		☐	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		☐	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		☐	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		☐	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。		

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容

今後の方向性 (ACTION)

の経営最終者判断議	事業の方向性		コメント欄
	☐	さらに重点化する。	
	☒	現状のまま継続する。	
	☐	見直しの上、継続する。	
	☐	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	☐	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	